



発行 開成中等新聞局 * * * 発行責任者 宮崎 制作者 宮崎

自分の命を守るために 万が一を考える



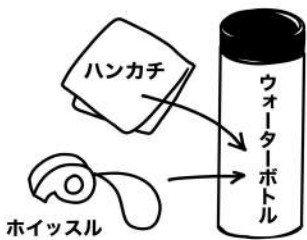
▲真剣な表情で根本教授の講演を聞く参加者たち

日本は世界きつての地震大国であり、いつでもどこでも地震に遭う可能性はある。実際に、18年に発生した胆振東部地震では、開成が位置する東区では震度6弱を記録した。今号では「北海道の防災」について紹介する。

3月2日、高校生ネット「た。イベントには開成生、元町小・開成小の生徒や保護者が約50名参加し、非常食の調理体験や防災

家で災害対策などをしたとしても、災害はいつ発生するかが分からない。今回は、外出先などでの被災に備え、防災グッズの携帯方法について紹介する。

避難バッグなどを常時携帯することは難しい。そこで、警視庁災害対策課は、ウォーターボトルに防災グッズを収納する「防災ボトル」を提案している。



ボトルに、ホイッスル・圧縮タオル・エチケット袋など、被災直後に需要の高い物品を収納することで、グッズをコンパクトにまとめることができる。またリュックサックのボトルホルダーに収納できるなど、中高生も携帯しやすいと言える。

気軽にできる災害対策として、皆さんもぜひ「防災ボトル」を携帯してみてください。

備えあれば憂いなし

の知識のクイズ大会、日本赤十字大学の根本昌宏教授による「冬場の避難所」の講義が行われた。

教授は「札幌市は豪雪地帯であるため、通常の災害対策に加え、低体温症対策が重要だ」と訴え、札幌市総合防災計画によると、冬の地震発生時に予想される最大の死者数は四八七三名であり、そのうち、厳寒期凍死者は四〇三〇名と、8割以上にも及ぶ。

低体温症は夏期や気温が15℃の時にも発症することがある。自分では発症に気づきづらいことや、重症化する意識混濁や昏睡状態を招くなど、危険性が非常に高い。夏期でも低体温症の危険性がある状況下において、私たちに求められているのは「予防」である、と教授は語った。

その上で、被災時にすぐ避難できるように、日頃から玄関に防寒着や動きやすい冬靴を用意しておくことが最も重要であるそう。特に、身体が濡れている状態は、濡れていない状態と比較して4〜5倍の冷却効果が発生する。そのため、避難バッグに乾いた衣服を用意しておく必要とのことだ。

他にも、体温の低下を防ぐために避難所の床などに直接触れないように段ボールベッドを用いたり、湯たんぽなどで直接加熱する方法、カロリーのある食べ物を食べるなどの対策が推奨された。

また、開放型ストーブなどの一部の暖房機器は、温風が循環しにくい場合や、1時間で環境基準の10倍の二酸化炭素を排出するため換気の必要があるなど、避難後の危険についても警鐘を鳴らした。

教授は「万が一」が起こったときのことを考え、防災に関心を持ち、想像し、知識をつけることが重要である、と力強く語った。

1/36517



新聞局からの挑戦状① Qこの写真は、校舎内のどこで撮ったものでしょうか？ ヒント:PEソーンの近くです

防災の大切さを伝えたい

開成生も司会、運営で活躍見せる

SSH防災サイエンスは、高校生ネットワークBLOSSOMによって開催され、開成生や開成小・元町小の生徒や保護者ら約50名が参加した。今回は、イベントで司会を務めた山岸駿介さん(6年1組)にインタビューを行った。

Q1 司会としてイベントに関わり、楽しかったことは何ですか？

A1 ハイゼックス(非常に時に調理に使うことができるビニール製の袋)を

用いて実際に非常食を調理し、体験してもらったことが出来、防災をより身近に感じてもらえるような活動が出来て良かったです。

また、企画・運営が好きたため、イベントを自ら回すことが出来て嬉しかったです。

Q2 難しかったことは何ですか？

A2 幅広い年代の参加者の皆さんに防災意識を高めてもらうには、どのような企画にすれば良いか、と考えることはやりがいがありました。難しかった

たです。

また、他のメンバーや先生方、運営面で協力してくれたボランティア局と上手くコミュニケーションをとって、全体をまとめることも大変でした。

Q3 BLOSSOMに入ってきたきっかけは何ですか？

A3 先輩からの誘いがあったことに加え、自分の母方の実家が宮城県にあり、東日本大震災での被災の経験があったため、以前から防災に対する興味や意識があったため、加入を決めました。

Q4 BLOSSOMに入



山岸駿介さん

高校生ネットワークBLOSSOMとは、道内の中学生によって運営されるボランティア団体だ。主な活動として、イベントやSNSを通じた防災啓発が挙げられる。今年3月11日には開成小でもイベントを開催し、小学生など、震災を経験したことがない世代に、防災の大切さや知識を伝えたい。また、実際に被災地を訪れたり、物資を送ることに



防災の大切さを伝える BLOSSOM

援活動も行っている。能登半島地震が発生した際には、市内で募金活動を行い、そのお金を用い、被災した高校生に向けて、メンバーからの激励のメッセージカードが付いたシャーパーンを送った。

このように、様々な側面から防災に対してアプローチし、防災の大切さを広めている。現在BLOSSOMは新たなメンバーを募集しているため、防災啓発や災害支援などの、防災に関するボランティア活動に興味がある人は、ぜひ左上のQRコードから加入登録を行おう。

りたい、と考えている人たちに一言お願いします。A4 一見、防災は面白いジャンルに思えないかもしれないけれど、自分の身を守るための知識が身につく、イベントや交流を通して楽しく学べます！敬遠する前に、まずは挑戦してみてください！ぜひ

今後BLOSSOMは様々なイベントなどを開催する予定であるため、その際にはぜひ参加し、防災に関する知識を深めてほしい。